

Ⅱ. 逆走対策実施状況

II-①. 逆走対策実施状況 [分合流部・出入口部の対策実施状況]

○「分合流部・出入口部」で発生する逆走に対し、高速道路会社管理区間と直轄高速区間の全てのIC・JCT・SAPAを対象とし、大型矢印路面標示やラバーポール等の物理的・視覚的な対策を実施
 ○2017年に対策が概成し、2021年3月末時点で高速道路会社管理区間と直轄高速区間の全ての箇所で対策が完了

〈対策実施例〉

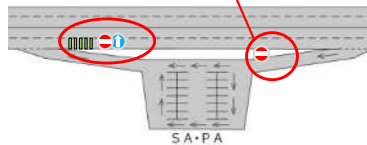
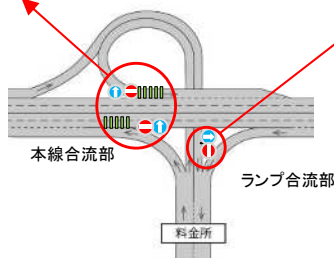
・本線合流部



・ランプ合流部



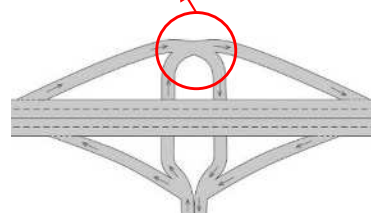
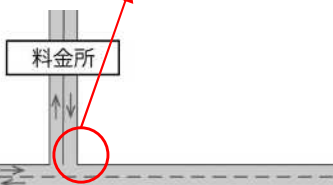
・分流部 (SA・PA)



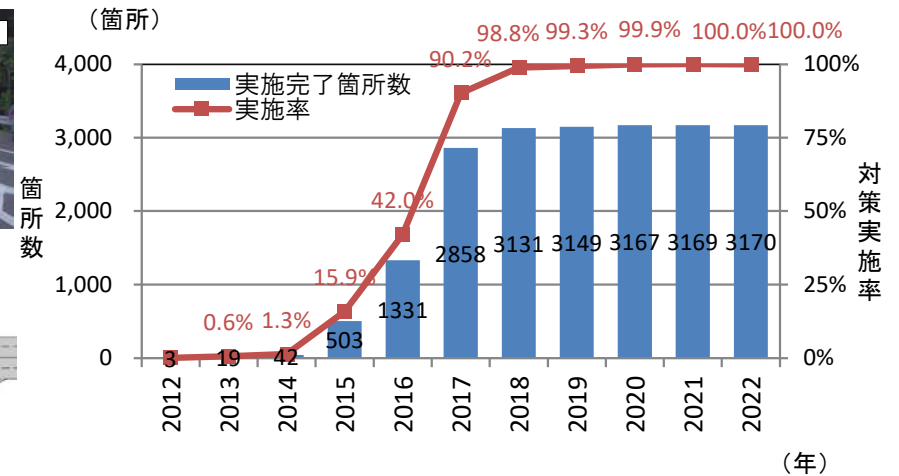
・一般道との接続部 (出口)



・ランプ分岐部



〈高速道路会社管理区間の対策進捗推移〉



データ：2022年12月時点での高速道路(高速道路会社管理)における対策実施状況

〈対策実施状況〉

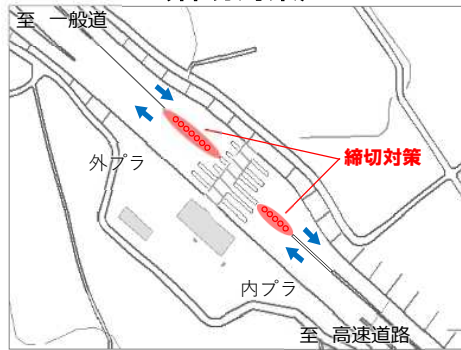
管理区分	箇所数	実施箇所数	対策実施率
高速道路会社管理区間	3,170	3,170	100%
直轄高速区間	734	734	100%
合計	3,904	3,904	100%

II-②. 逆走対策実施状況 [料金所プラザ部の対策実施状況]

- 「料金所プラザ部」で発生する逆走に対し、高速道路会社管理区間の全ての料金所に対し、締切り対策(代替策※含む)を実施
- 内プラの対策は全て完了、外プラの対策実施率は87%となっている
- ※施設配置上物理的な締切りが不可能な料金所に対して、看板や路面標示を設置するもの
- 2020年に対策が概成し、2023年度に高速道路会社管理区間のすべての箇所に対策完了予定

〈対策実施例〉

〈締切対策〉



※東北自動車道 福島飯坂IC



締切対策

〈代替策〉

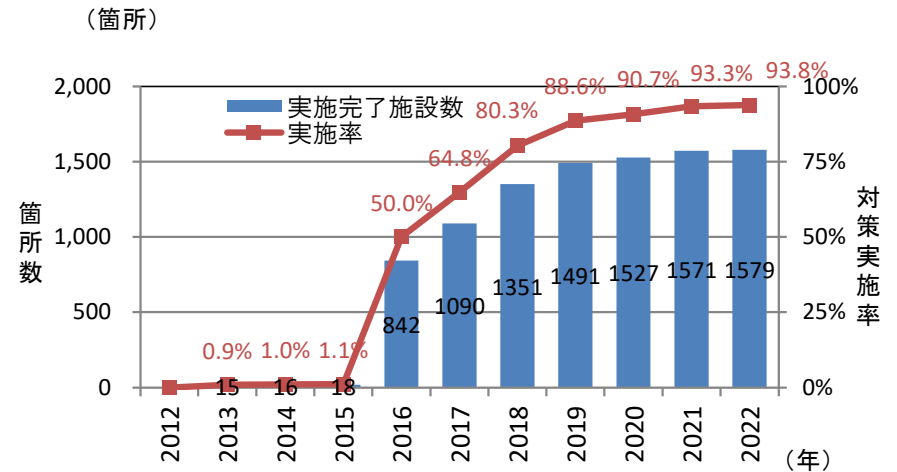


※常磐自動車道 水戸IC



注意喚起看板

〈高速道路会社管理区間の対策進捗推移〉



データ：2022年12月時点での高速道路(高速道路会社管理)における対策実施状況

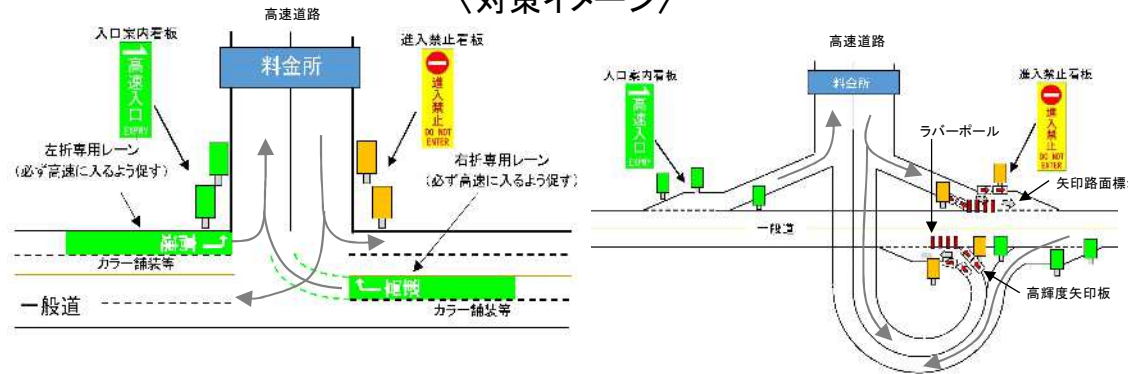
〈対策実施状況〉

管理区分	箇所数	実施箇所数	対策実施率
高速道路会社管理区間	内プラ	864	100%
	外プラ	819	715
合計	1,683	1,579	93.8%

II-③. 逆走対策実施状況 [料金所前後(一般道側)の対策実施状況]

- 「料金所前後」で発生する逆走に対し、高速道路会社管理区間のうち一般道と接続する全ての箇所に対し、一般道側に注意喚起看板やカラー舗装等の対策を実施
- 2019年5月に一般道側の各道路管理者(都道府県・整備局等)へ協議の促進に関する通知を発出し、高速道路管理者が主体となりIC部の一般道接続部分の対策を推進
- 2022年12月時点での対策実施率は92%となっている
- ※「分合流部・出入口部」は出口の高速道路側対策であるのに対し、「料金所前後」は一般道側の対策となる

〈対策イメージ〉



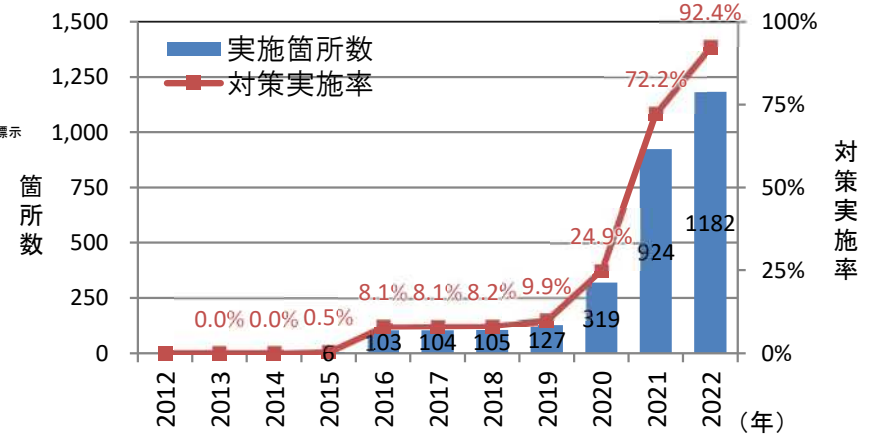
〈対策実施例〉



新名神高速道路 菰野IC



〈高速道路会社管理区間の対策進捗推移〉



データ：2022年12月時点での高速道路(高速道路会社管理)における対策実施状況

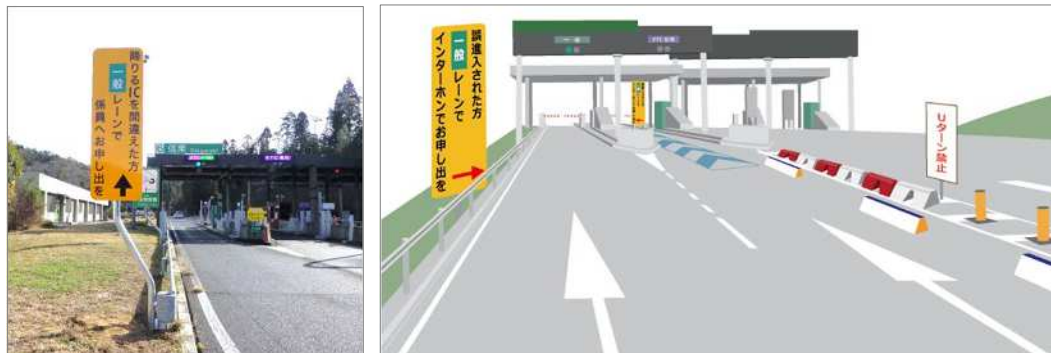
	進入禁止看板	高輝度矢印板	矢印路面標示	ラバーポール	高速入口看板	カラー舗装	施設数
箇所数	910	799	744	403	1,038	898	1,279
実施箇所数	886	784	716	371	1,013	838	1,182
対策実施率	97%	98%	96%	92%	98%	93%	92%

※2019年以前の高速会社管理用地の対策を追加工

II-④. 特別転回の対策実施状況と発生状況 [案内掲出]

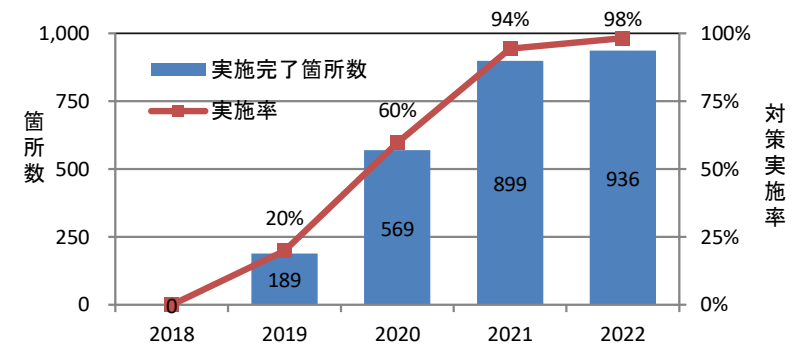
- 特別転回の申出は1ヶ月間で約35,000件発生(2019年1月～2月の1ヶ月間)
- 特別転回制度の案内周知と強化を目的とし、構造上対応可能なすべてのICへの案内掲出を2020年度完了目標とし推進
- 2022年12月時点で98%実施、残りのICへの案内掲出は2023年度内に完了予定
- ※構造上掲出できないICについては、逆走の発生状況や道路構造等を踏まえ、公募技術等の展開を今後検討

〈対策実施例〉



<p>降るICを間違えた方 待機場所</p> <p>一般レーンで 係員へお申し出を</p>	<p>誤進入された方 一般レーンで インターホンでお申し出を</p> <p>進行方向を間違えたら 次のICでお申し出を</p>	<p>目的のICを通り過ぎたら 次のICでお申し出を</p>
<p>誤流出対策(出口) 降るICを 間違えた車両</p>	<p>誤進入対策(入口・分岐部) 間違えて高速入口へ流入した車両 IC・JCTで分岐間違いした車両</p>	<p>本線上対策 目的のICを 通り過ぎた車両</p>

〈特別転回案内看板掲出の対策実施状況の経年変化〉



データ：2022年12月時点での高速道路(高速道路会社管理)における対策実施状況

掲出予定箇所 (全953施設)

対策	箇所数	実施済	%
誤流出対策	863	846	98%
誤進入対策	648	633	98%
本線上対策	410	410	100%
完了箇所数	953	936	98%

II-⑤. 逆走防止に向けた広報・啓発活動

- 2016年のロードマップ公表以降、運転者側への逆走対策として、啓発活動や広報物を作成
- NEXCO各社ではポスターやマスメディアを通じた広報・啓発活動に加え、HPで逆走防止に関する活動の紹介や逆走防止の動画等を公表
- それ以外にも、逆走を想定した合同訓練による逆走車両への対処方法の確認や、講習会でのドライバー教育(約100回/年)を実施

＜テレビCM(NEXCO各社)＞

<p>①</p>  <p>『無くそう、逆走』 -逆走車への対応-</p>	
<p>②</p>  <p>逆走車の通報を受けると、 情報版が点灯されます。</p>	
<p>③</p>  <p>もし逆走情報を見たら、</p>	
<p>④</p>  <p>車間距離を取って、注意 して走行してください。</p>	

＜ポスター＞



分合流部などでは“行き先”の確認を!

無くそう 逆走 逆走は、命にかかわる危険行為です。

分合流部での行き先確認の啓発

＜NEXCO東日本HP＞



『家族みんなで無くそう逆走』

逆走・車の安全運転に関する
「三世代」調査

NEXCO東日本、「三世代免許」になったら、
家族みんなで運転や逆走の話し合いを

逆走・車の安全運転に関する
「三世代」調査の実施

ドライビングスクールでの
「三世代免許 特別講義」

＜NEXCO各社HP＞



無くそう 逆走 逆走は、命にかかわる危険行為です。

逆走は2日に1回以上発生している身近な問題。
逆走事故の死に至る確率は、
高速道路での車線変更時に比べ約15倍にも及びます。
自ら命を落とさないために、他人の命を奪わないために
逆走防止策の対応策を身につけましょう。

無くそう逆走—高速道路は一方通行です—

＜合同訓練＞

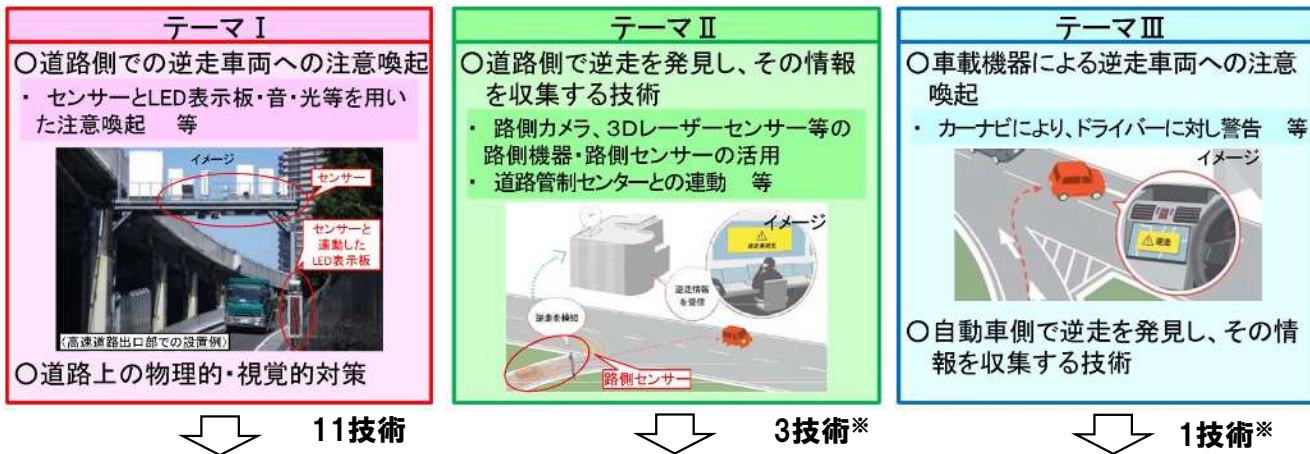


逆走事案を想定した訓練を
西日本パトロール会社合同訓練にて実施

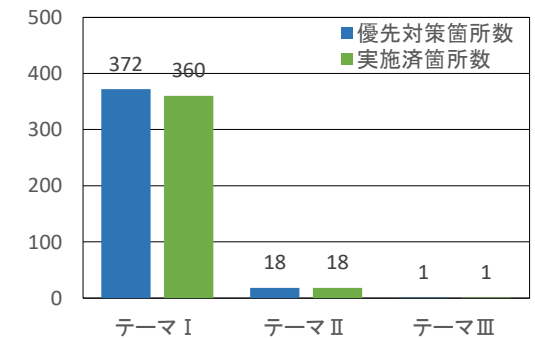
II-⑥. 公募技術による逆走対策実施状況

- 2016年に逆走対策を公募・選定。選定された公募技術は、逆走事案発生状況を踏まえ抽出した優先対策箇所を対象に対策を推進、2020年度内の完了目標に対し、2022年12月時点で約97%完了。残りの箇所は2023年度内に実施予定
- 2023年度以降は、対策済み箇所を対象として公募技術の有効性・適用性を確認し、更なる普及促進を展開

逆走事案や逆走事故を減少させるには、
重層的な逆走対策や現地の状況に合わせた対策が必要となるため、
公募による新しい技術を公募し選定を行った。



〈公募技術による逆走対策実施状況〉



データ：2022年12月時点での高速道路(高速道路会社管理)における対策実施状況

過去に逆走事案が発生した箇所から適用範囲や現時況を踏まえ優先対策箇所を選定、
公募技術の逆走対策を展開

テーマⅠ 372箇所

テーマⅡ 18箇所

テーマⅢ 1箇所

2022年度に優先対策箇所への展開は約97%完了
残りの箇所は2022年度内に完了予定

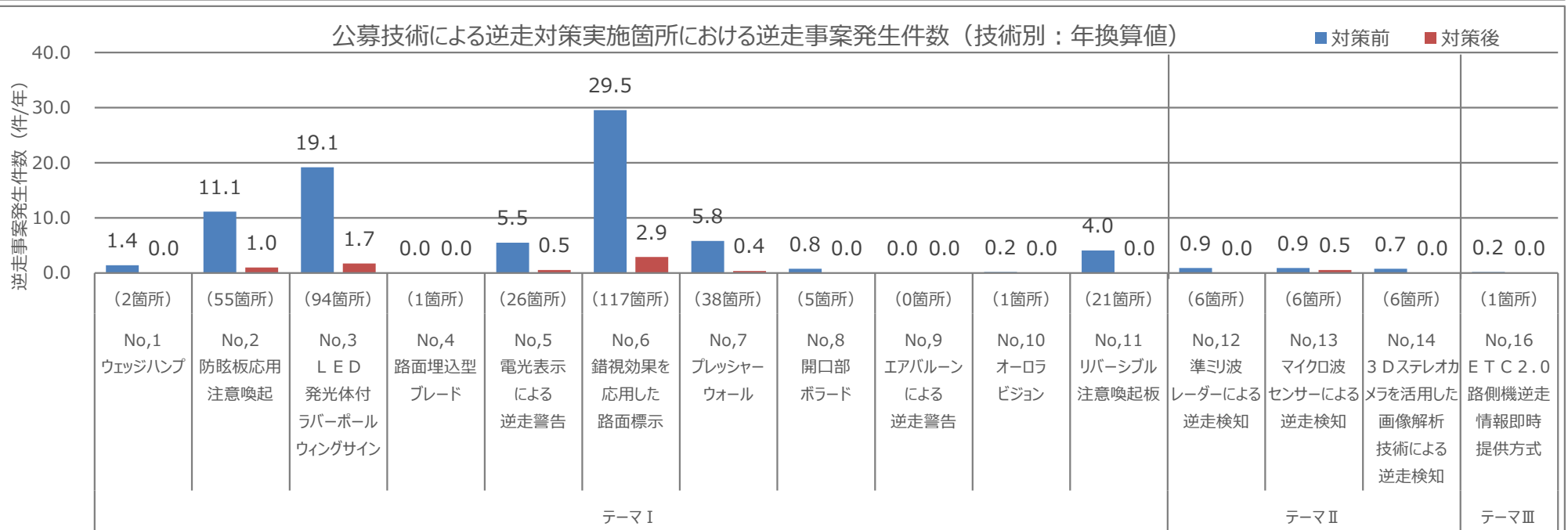
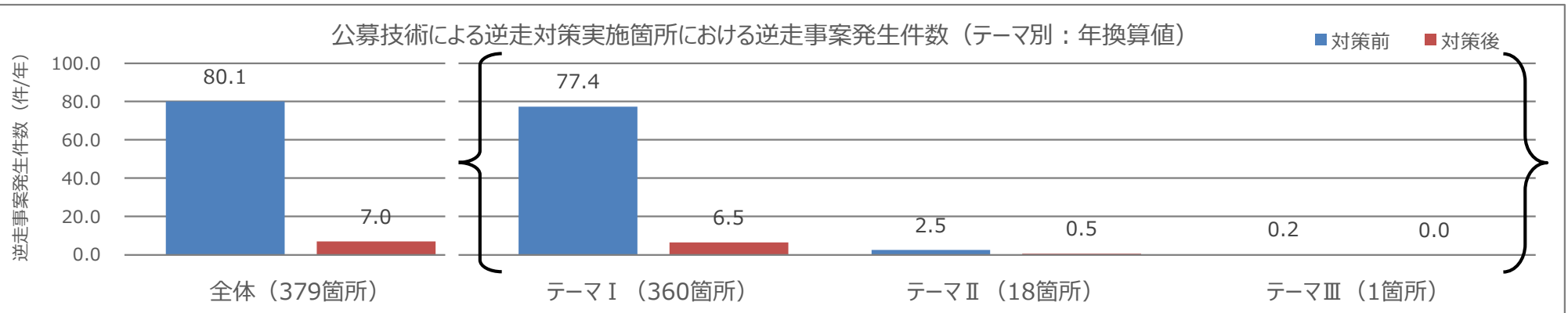
優先対策箇所における効果(有効性や適用性)を確認し、
更なる普及促進を展開

公募技術テーマ	優先対策箇所数	実施済み箇所数	対策実施率
テーマⅠ	372	360	97%
テーマⅡ	18	18	100%
テーマⅢ	1	1	100%
合計	391	379	97%

※2018年の選定時はテーマⅡは4技術、テーマⅢは3技術が選定されたが、その後メーカー側で開発を中止したため、テーマⅡは3技術、テーマⅢは1技術となった。

II-⑦. 公募技術による逆走対策実施箇所の逆走事案発生状況

- 公募技術実施箇所(379箇所)では、対策前に80.1/年の逆走事案が発生していたが、対策後の発生は7.0件/年となっている
- 公募技術実施箇所における対策別の発生件数は『錯視効果を応用した路面標示(117箇所)』では対策前は29.5件/年の逆走事案が発生していたが、対策後は2.9件/年となっており、その他の対策においても、対策後は2.0件/年未満の発生となっている



※No.4路面埋め込み型ブレードは廃止されたBSIに試験的に設置

データ： 2015年～2022年12月までの高速道路(国土交通省及び高速道路会社管理)における事故または確保に至った逆走事案 N=1,655のうち、公募技術を実施した379箇所における逆走事案を対象
 出典： 警察の協力を得て国土交通省・高速道路会社が作成